

# 急性中耳炎

## 原因と症状

- ・鼻やのどの細菌が耳と鼻をつなぐ耳管(じかん)を通して中耳腔に入り感染することによっておきます。
- ・0歳から5歳までの乳幼児によく起こり、小学生になると起こりにくくなります。
- ・風邪などのあとに耳が痛くなったり、耳だれが出たりし、発熱することもあります。
- ・原因となる細菌はインフルエンザ菌や肺炎球菌が多くみられます。抗生物質が効きにくい、耐性菌による感染もあり、耳だれなどの検査が必要です。

## 治療

- ・治療は抗生物質の内服や点耳(耳に薬を入れる治療)、痛み止めの内服、座薬などで行います。
- ・炎症が強く、鼓膜が強く腫れているときは鼓膜切開(鼓膜を切って膿を出す治療)を行います。膿が出れば痛みがおさまり、治りも早くなります。
- ・耳の治療と同時に鼻やのどの治療も行います。
- ・痛みがとれても炎症は続きますので、医師の指示に従って治療を続けてください。
- ・適切な治療を受ければ1、2週間で治ります。
- ・中には鼓膜の奥に水が溜まる滲出性中耳炎に移行する場合がありますので医師の指示に従ってください。頻回に繰り返すと慢性中耳炎になることもあります。

## 家庭で注意すること

- ・夜中に耳の痛みがあるときは、手持ちの痛み止め(解熱鎮痛剤:カロナール等)があればそれを使いましょう。発熱が無くても使用して問題ありません。
- ・氷枕(アイスノン等)で痛い耳の周囲を冷やすことも有効です。
- ・痛みが和らいで寝付くことができれば、翌日耳鼻科を受診してください。
- ・痛みが改善したとしても、翌日には耳鼻科を受診してください。
- ・赤ちゃんは痛みを訴えられないので、風邪の後に「耳に手をやる」などのしぐさや「耳だれ」に注意しましょう。
- ・なかなか泣き止まない場合、中耳炎の可能性もありますので耳鼻科で相談ください。

## 急患診療センターを受診するめやす

- ・痛みが強く、手元に痛み止めがない場合は、夜間なら急患診療センターの小児科か内科で痛み止めを処方してもらってください。
- ・急患センターの耳鼻科外来は日曜、祝日、年末年始、GWの昼間(9時~18時)のみですので、翌日や休日明けに必ずお近くの耳鼻科を受診してください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>